

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム 第 5 回会合 議事録案

1. 会合の概要

日時： 2021 年 8 月 10 日(火)17:00～18:20

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 17

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田 陽一	総務省
今村 萌音	総務省
小畑 至弘	BizMobile 株式会社
上村 圭介	大東文化大学
実積 寿也	中央大学
柴山 佳徳	総務省
高松 百合	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
武田 真理	総務省
二島 勢津子	総務省
濱口 智美	総務省
堀田 博文	JPRS
本田 聖	個人
前村 昌紀	JPNIC
村田 篤紀	合同会社 DMM.com
森口 友里	株式会社インターリンク
森下 大	総務省
山崎 信	JPNIC

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 資料：

1. [IGF2021 事前イベント サブグループメンバー](#)
2. (第 2 回会合 資料 3 再掲)IGF2021 事前イベント スケジュール (案)

3. [セッション提案の審査について](#)
4. [IGF2023 日本開催に向けた働きかけリスト・テーブル](#)

3. アジェンダ：

3.1. 前回議論の振り返り→参照：資料1

3.1.1. 前回議論の振り返り

3.1.2. 宿題の進捗確認

	状況	内容	担当	期日
1		セッション公募の案内文および募集要項を仕上げ、メンバーに提示	堀田（プログラム検討サブチーム）	7/6
2		全体ワークプランのマイルストーン案作成	高松	7/19
3		第4回会合の議事録案および録面のラストコールを行う	山崎	7/30

3.2. 本日の打合せの目的確認

- (1) 前回議事録案の確認
- (2) IGF2021 事前イベントに向けた準備状況の共有

3.3. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告

3.4. IGF2021 事前イベントについて

3.4.1. 進捗共有・議論：プログラム検討サブチーム

3.4.2. 進捗共有：ステークホルダーエンゲージメントサブチーム

3.4.3. 進捗共有：イベントサブチーム

3.5. Todo 確認

3.6. 次回打合せについて

3.7 その他

4. 議論の概要

冒頭で前村氏が司会をすることについて異議がないか確認が求められたが、特に異議はなかった。司会の前村氏より、本日の資料の確認が行われた。次いでアジェンダに沿って議論が行われた。

4.1. 前回議論の振り返り

山崎より、第4回会合議事録案は作成中であることを説明した。司会より、第4回の概要について説明があった。

- チャーターがラフコンセンサスに至った
- 小畑氏より、10月のIGF事前会合までに組織立てがちゃんとできるという風なことが見えていないと、有効なエンゲージメントができないのではないかと指摘をいただき、活発な議論を行った。その後小畑氏にもエンゲージメントサブチームに加わってもらい、チーム内でディスカッションを行っており、メールにて報告した。

4.2. 本日の打合せの目的確認

司会より、以下が紹介された。

- (1) 事前イベントに向けた準備状況の共有
- (2) 各サブチームの作業進捗状況

4.3. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告

飯田氏より次の発言があった：人事異動が完了し新体制ができ、総務審議官（国際担当）および（国際戦略局）局長が着任した。至急省内の体制と、国内の体制に対する総務省の案を作成しなければならない。G20のデジタル経済大臣会合が（イタリアで）開かれ、武田総務大臣が出席したので随行した。データフローとAIの議論が行われたが、昨年よりも議論が進んだというわけではない。DFFTの理解が共通となってきたためか、立場を留保する国が出てきて各国の考え方やポジションが分かっている。南アフリカやインドは自由化に明確に反対したが、米国がDFFTの考え方を全面的に支持する旨理解を深めたところでは捉えている。G7ではDFFTの実現方法についてのロードマップを作成中で、一方日本国内ではデジタル庁が進めるデータ戦略の中で作成しているロードマップがあり、内容は結構違う。これは、データフローには様々な面があるため1つの正解がある訳ではないことがよく表している。デジタル化が進みデータがイノベーションや様々なチャンスを創出する一方で課題も生み出しており、これらにどう対処しながらイノベーションやそのメリットを最大化するかについての議論を（日本）政府は行っているが、G7やG20で議論していると、まずは民間主導であり、マルチステークホルダーでトータルに議論する場が一番大事だということになった。我々（総務省）は2016年から行ってきた議論の中でIGFがマルチステークホルダーで議論を進める場として非常に重要であり貢献しなければいけないと考えてやってきている。武田大臣からは2023年にIGFを主催するので来てほしいという話を行い、2019年のIGFを主催したドイツの大臣は非常に大変だがやる価値はあり経験になると言われた。イタリアの後データガバナンスのプロジェクトに関わって

いることもあり OECD に立ち寄った。こういったものも日本として視野に入れながら IGF 2023 の準備をしたいと考えており、国際的なパートナーと議論をしてきており、帰国したので上層部と改めて議論することになるだろう。前体制でも議論は行ったが、後半具体化できなかったので、至急形にして次回には具体的な話をできるようにして皆さんとご相談できるようにしたい。

柴山氏からは、当時日本に IGF を招致しようと考えた狙いについて共有いただきたい、とのコメントがあった。

飯田氏からは、次の通り回答があった：2016 年からデータフローなどデジタル化の功罪について政府レベルで議論をしてきた。そのメリットは多くあるが、G7 の中で、米仏間で見方が非常に違い、フランスはリスクの方が高いと主張し、アメリカはメリットをとにかく生かすべきと、同じことを言っているが言い方が違うだけで見え方や政策が違ってしまい、対立に見えてしまい、一緒に行動する機会を失わせており、かつ政府だけでは全部議論できないことが分かってきて、IGF の場で議論することの必要性を強く認識した。一方で、マクロン仏大統領による IGF 2018 開会式での演説やグテーレス国連事務総長のハイレベルパネルなどで IGF、インターネットガバナンス、グローバルなデジタル協力が機能していないのではないかという議論が行われるに至った後、やはり我々はマルチステークホルダーによる自由なインターネット空間の維持発展というのを守っていかなければならず、そのためには IGF を機能させることが必要であると認識した。IGF が機能しているか、していないかは評価が分かれると思うが、より一層機能させて、今不満を持っている人たちにもちゃんと応えられるようにしていかなければいけない。そのためにフランスもフランスなりに努力したが、翌 2019 年のドイツは課題に応えたり、アウトプットを出すような努力を行った。それを見ながら日本として政府レベルの政策議論で国際的に G7 や G20 でリードしているという意識を持ってやってきているので、米国が正常化するまで、もしくは正常化した際は共に、日本がグローバルにこの議論をやらなければいけないという意識で IGF を日本に呼んでインターネットガバナンスの正しい形を見せる必要があるという決意を行ったのが招致を決断した背景である。2025 年に WSIS+20 が開催され IGF の見直しがおこなわれるので、その際に 20 年やったけどダメだったよね、2025 年のロシアでの IGF 開催の際にこれで最後にしよう、という議論にならないよう IGF が機能していることを見せないといけないという意識で、日本でやって見せたい、という動機から招致を決めた。皆さんと一緒にやり遂げないといけないと思っている。

これに対し柴山氏からは、IGF が機能しているところを見せることが目的だとすると、文書などでのアウトプットを視野に入れて進める必要があるのか、という質問があった。

これに対し飯田氏からは次のコメントがあった：ドイツはレポートをまとめたが、政策提言はやっていない。理由は米国が反対するからで、IGF は交渉して何かをプロデュースするのではなく、自由な議論の場であるという立場を維持しているため、アウトプットの形式や方法は難しいと思っている。米国に反対されると何もできないので、意識合わせを行

って進めていくことになると思うので、文書や政策提言を狙い撃ちというのは危険で、むしろマルチステークホルダーらしいもの、IGF らしい形が何なのかということについては政府以外のステークホルダーの皆さんの意見を伺いながら出てくるとよいと考える。

4.4. IGF2021 事前イベントについて

4.4.1. プログラム検討サブチーム

堀田氏より、プログラム提案を待っていたが、事務局／連絡先に提案が届いていないかどうか確認があった。山崎より、1 件提案があった旨返答した。堀田氏より、2 週間ほど提案締め切り時期を延ばしてさらに提案いただければと考えていること、および飯田さんの話から着想して IGF 2023 について議論するセッションもあるとよいかと個人的に思ったので、プログラムサブチームでセッションを2、3 個作れればと考えている旨発言があった。

上村氏より、提案募集期限延長は合意されたのか、との質問があり、堀田氏より、まだ合意されていないがこの場で合意されれば延長をアナウンスすることになる、元々の計画中に提案が十分に集まらなければ募集期限を延長するとなっており、それがコンセンサスになっているのでそれに基づき延長する、との発言があった。司会より、この場で提案期限を2 週間延長することについて合意してよいか、異論はないかとの問いかけがあり、特に異論はなかったため、期限を2 週間延長して8 月24 日までとすることになった。

4.4.2. ステークホルダーエンゲージメントサブチーム

前村氏より、8 月3 日に送付したメールの内容の補足説明が次の通り行われた：

- 1) エンゲージメントサブチームに対してプログラム募集案内の拡散の際にもエンゲージメントの役割を果たした方がよいという考え方があったが、本サブチームの進捗が芳しくなく整備に色々必要なのでとりあえずは身近で有望な方々に直接働きかける方が近道だと考えた。
- 2) 働きかけリストを表にしたが、エンゲージメントサブチーム以外からもインプットをお願いしたい。現時点では組織名がリストアップされているだけだが、重要度やタイプなどのセグメント分けが必要で、どう工夫するかはこれから考えないといけないと思っている。
- 3) 第4 回会合で小畑氏から提起があった、影響力の大きい有力団体の参加を乞うためには、今年のプレイベント直後には間に合わなくても、すべてきちんとした後には後ろ盾のある組織化されるべき。そのためにはプレイベントに関連省庁にも広く参加してもらうことが必要で、それに関しては IGF に向けた方針が定まっている必要がある。先ほどの飯田氏からの報告によれば以前よりも近い位置まで議論が動いているようなので期待したい。

IGF を理解してもらうためのマテリアルはこれまでに1 つ提示したが、それ以上は進

んでいないが急いでやりたい。

本田氏より、個人の立ち位置として、参加意識を啓蒙していく必要があることと、個人や消費者団体の利用者の観点で参加を促していく必要があると思っている。各自の立場に応じて自分がどう動けるか考えていくのがよいのではないかと思っている。そのためには、個人としての参加を促すマテリアを作る必要がある、というコメントがあった。

前村氏より、次のコメントがあった。消費者をどのように取り込むのは大きなテーマとして当初から活発化チームで検討し始めていたが、さらに一段の工夫が必要。マテリアルに関しては財力が必要なものはできないので、工夫しなければならない。働きかけリストにぜひコメントおよび書き足しをお願いしたい。エンゲージメントの具体的な方法はサブチーム内で考えていく必要があり、前回第4回会合で小畑氏から提起のあった、秋の事前会合までに組織を組み立てるようなアプローチにあたっては再考が必要と考える。8月9日に小畑氏からメールが送られ、重要な指摘を頂いたと思うので、小畑氏本人から説明いただけるとよいと思うがいかがか。

なお小畑氏からのメールの要旨は、次の通りである：

- A) 次の3点はきちんと分けて考えるべき
 - 1) NRI をどうするか、
 - 2) IGF 2023@日本をどうやって成功させるか、
 - 3) 日本において IGF 活動をいかに定着させ 2023 に意味のある活動を行うか
- B) 働きかけ資料は 2021 年冬前には組織化することを前提とした、発足メンバー（具体的には消費者庁などへの働きかけを模索する立石氏、経産省との調整を図っている加藤氏）が利用できる説得材料である必要がある。
- C) 働きかけには JPNIC と JAIPA の分析のもとに文書を承認するのがよい

小畑氏より、次のコメントがあった：NRI をどうするという議論があったと思うが、現実を見ると日本には今 NRI はなく、NRI の要件を満たしている組織はなく、コンタクトポイントはなく、NRI ではない組織がある。今回の本チームの活動で、（国内）IGF 活動を活発化させることで本チームが NRI になるのも筋違い。

前村氏より、資料に関しては今までに作成したものの中から、材料として使えるものを準備し、そこからどういったものを作るか議論するのだと思う、というコメントがあった。小畑氏より、今8月なので10月はもうすぐ来る、というコメントがあった。前村氏より、過去にある材料を探すのは急いでやりたい、エンゲージメントサブチーム内での働きかけ戦術について議論したいというコメントがあり、小畑氏のメールの1) 2) 3)のあたりについて参加者の考えを伺いたい旨発言があった。

本田氏より、順番から言うと 2)の IGF 2023 を成功させるものがある、その前段として国内 IGF 活動が活発化しているというのがある。NRI と活発化チームはつながっているので、きっちり分ける必要はないと感じている、という旨発言があった。

小畑氏より次のコメントがあった：IGF 2023 はこれまで 10 数年やってきたことと同じように個人としてテーマを持ち込んだり議論に参加したりすれば成功すると思うが、日本の組織にとってメリットがあるかというとならない。IGF の活動を国内で活発化して、NRI を通じて世界に訴えかけ、IGF 2023 を開催して世界に訴えるという積み上げをやってはじめて日本にとっての成功となると思う。IGF 2023 を招致だけしてあとは個人でやってくれとなっているようには見えないように本チームが存在するのだと考えている。

本田氏からは、各分野に関する団体は存在するが、全体として皆が集まってインターネットガバナンスについて課題を出す場所がないと感じており、その場づくりが意味のある活動の端緒になるのではないかと考えている、とのコメントがあった。

小畑氏より次のコメントがあった：この間（2018 年頃～）の海賊版の議論では、業界間の対立があり、各団体での議論というのはこういった問題では全く機能しない。今まで日本が対応しきれなかったものを対応するのは新しいやり方だと思うが、経験がなく誰も慣れている人がいないので皆で頑張らなくて勉強していこうというのが本チームの最大の役割だと思った。NRI を作るというのは NRI の役割をちゃんと果たす組織を作らなければならず、ちゃんと仕事を持って動く団体を作らない限り難しいと思う。

前村氏からは、（本チームで）輪を広げて取り組まなければいけないし、2023 年は非常に大きな契機になるので活用しなければならないと思っている、2023 年まで 2 年しかないので半年単位の目標設定が必要というのはその通りだと思う、前回の議論で挙がったやらないといけないことに対しては思い切った意識とスケジュールの引き直しが必要と思う、とのコメントがあった。

実積氏からは、NRI はちゃんとした事務局を備える組織体が必要なのか、アドホックに集まるような会議体でよいのか、という質問があった。

前村氏からは、NRI 承認基準には年に 1 度国内で IGF 活動を行うイベントを開催、イベントの運営は基本方針に従ってマルチステークホルダーで行う、となっているだけで、法人であるかということには関係ない、という理解である旨コメントがあった。

実積氏からは、先ほど小畑氏の発言にあった、本チームの活動が NRI でないという意味がよく分からない、チャーターという基本方針があってそれに従って年 1 回（国内）IGF を実施すれば NRI の要求を満たしているのではないのか、というコメントがあった。

堀田氏からは、NRI には常設のコーディネーターやコンタクトポイントが必要で、例えばグローバル IGF や他 NRI から日本のインターネットガバナンス活動について質問された際に代表して答えられる機能が必要となっていると思う、その意味で小畑氏が発言したよう

に、今はそう言った機能は果たせていないので NRI としては不十分である、とのコメントがあった。

小畑氏より、チャット経由で IGF の全ての NRI ミーティング（月に一回以上ある）に参加するのも、会議体というやり方では機能不全に陥る、とのコメントがあった。

前村氏より、NRI としての活動より活発化チームという形で進めたいと思ったので後回しにしようと思ったが、コーディネーターのポジションには山崎をと思っている。もちろん皆の合意が必要だと考えているとの発言があった。

上村氏より次のコメントがあった：NRI の成り立ちは国によって違い、法人になっているところもあれば、会議体でやっている場合もあれば、既存の組織が国別 IGF を組織しているところもある。コンタクトポイントが国連 IGF 事務局と連絡を取る密度、グローバル IGF が開催する NRI 会議への主体的な参加についても国により濃淡があると思う。過去数年については、立ち上げ期で皆やる気に満ちていたので様々な国から NRI の代表が NRI 会議に出ていたと思う。2016 年のメキシコ・ハリスコでの IGF 本活動が IGF-Japan と IGCJ の活動を束ねて NRI としての Japan IGF として進んできたが、本当に Japan IGF が日本のインターネットコミュニティを代表できているのか、という問題がずっとあった。これ幸い 2023 年に IGF を日本招致でき、それに向けた活動が NRI を名乗るイニシアティブ(Japan IGF)とは別に進んでいるので、2023 年ごろにそこが日本のインターネット（ガバナンス）や IGF に関する活動をうまく集約できれば、そこに移行するのもありだと個人的には思う。その意味では 2016 年に付焼刃的に始めた活動がどこかのタイミングで発展的に解消してそちら（IGF 2023 に向けた活動）に融合するのが現実的なのではないかと思う。先ほど前村氏がコンタクトポイントの話をしたが、これは旧 NRI の 이슈なので今ここで議論しても仕方がないが、最終的に片方が発展的に解消して合流するという話になれば前村氏が言った形になるか、あるいは旧 NRI の方で別途議論して、空席となっているコンタクトポイントを埋めることができるかもしれない。なお今の NRI は付焼刃的に始めた綻びが繕いきれない状態で続けているので大変やりにくかった。いつまでに何をしなければいけないのでそれに辻褄を合わせよう、といった進め方はしない方がよいと思う。

4.4.3. イベント（ロジ周り中心）検討サブチーム

司会より、イベントサブチームの進捗について質問があった。

山崎より、前回から進捗がない旨発言があった。

4.5. Todo 確認

司会より、NRI コーディネーターポジションについてチャットで議論があり、小畑氏からは有償で契約で縛るということは組織でないとダメということだが、今やらなければならない議論ではないと思う、とのコメントがあった。

司会よりさらに、プログラム募集については 2 週間期限を延長したこと、ステークホルダーエンゲージメントサブチームでは働きかけマテリアルを作る作業、および働きかけリストの検討が必要、今週中に線表を示せるようにしたい、とのコメントがあった。

4.6. 次回打合せ

次回会合は、8 月 30 日月曜日 17 時 30 分から開催することを決定した。

4.7. その他

.Asia の若年層向けインターネットガバナンスに関する能力開発イベント「Gather&Talk インターネット ホットトピックス 2021」を 8 月 30 日の会合の直前、13 時から 17 時 15 分まで開催する旨前村氏より共有された。

以上